「あまみエフエム　ディ！ウェイヴ」放送原稿（１０月２５日（金）放送分）

テーマ　新着図書紹介

あまみエフエム　ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今朝は，奄美図書館の１１月の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

１冊目は，今年直木賞を受賞した桜木紫乃さんの『無垢の領域』です。著者の出身地でもある北海道釧路市が舞台となっています。民営化されてから図書館業界の革命児と呼ばれている有能な図書館長，公募展で落選を続ける書道家，その妻である養護教諭。かつて書道家であったが今は寝たきりで介護を受けている母。ここに書の才能以外の生活能力を欠く子どものように無垢な図書館長の妹がやってきたことから，大人たちの安穏な日常が歪んでいきます。受賞後第一作となる待望の恋愛小説です。

２冊目は，外山滋比古さんの『思考力』です。かつてイギリスの哲学者フランシス・ベーコンは「知識は力なり」と言っていましたが，しばらくするとフランスのデカルトが「われ思う，ゆえにわれあり」と知識だけでなく，考えることが大事なことだと言っています。著者は，本来，人間は生まれつき相当に高度な思考力を持っているので，この思考力をいかに伸ばすかということが，これからの日本にとって重要な課題になると書いています。本の中では，自分の頭で考える力，頭を整理する力，直感的思考力，独創は反骨力の四つの項目ごとにそれぞれの事例を挙げて解説しています。

次に，児童書をご案内しましょう。

１冊目は，今月１３日に亡くなった「あんぱんまん」の作者でも有名な，やなせたかしさんの『クシャラひめ』です。鼻が低いことがコンプレックスのクシャラ姫は，いつもボール紙で作った三角形のとんがった鼻をつけていました。ある日，森の中で小鳥やうさぎたちと遊んでいるうちに，恐ろしい竜に出会いました。クシャラ姫は，あまりの怖さに気絶しそうになりましたが，竜の目がひどく悲しそうなことに気がつきました。そこで，なぜ，そんなに悲しいのか理由を尋ねると，竜の目から大粒の涙がこぼれてきました。

さて，この後クシャラ姫と竜は一体どうなるのでしょうか。なんとなく親近感のもてるお姫様の心温まるお話です。なお，やなせたかしさんの関連図書もありますので，ぜひご覧ください。

２冊めは，ジャン・ピンボローさんの絵本で『図書館に児童室ができた日』です。昔，アメリカの小さな町に，自分の考えをしっかり持った女の子がいました。まだ，女の人が自分の考えで仕事を選ぶのが珍しかった時代，その女の子はニューヨークの町に出て専門の勉強をすると言って図書館で働き始めます。そして，ニューヨークの新しい大きな図書館に，すばらしい「児童室」を作ったのです。

この話は，児童図書館サービスの先駆者のひとり，アン・キャロム・ムーアさんの生涯の物語になっています。

最後は郷土に関する本のご案内です。

福田晃（ふくだあきら）さんの『沖縄の伝承遺産を拓（ひら）く』です。フィールド・ワークを通して沖縄における土俗（どぞく）の思想を探っています。そして，それは地域共同体の祭祀（さいし）をつかさどるノロや個人の祈祷（きとう）をいとなむユタたちの想像力のなかに見出されるとしています。奄美群島では徳之島の昔話調査の様子も書かれています。昔話と伝説と神話の違いについて，ジャンルごとに説明してあり，著者が三十有余年にわたって奄美・沖縄地方で採訪（さいほう）収録したシマクチ（方言）の昔話資料に基づき書かれた本です。

だいぶ涼しくなり過ごしやすい時季になりました。どうぞ図書館で読書の秋を満喫してみてはいかがでしょうか。

鹿児島県立奄美図書館（かごしまけんりつあまみとしょかん）でした。